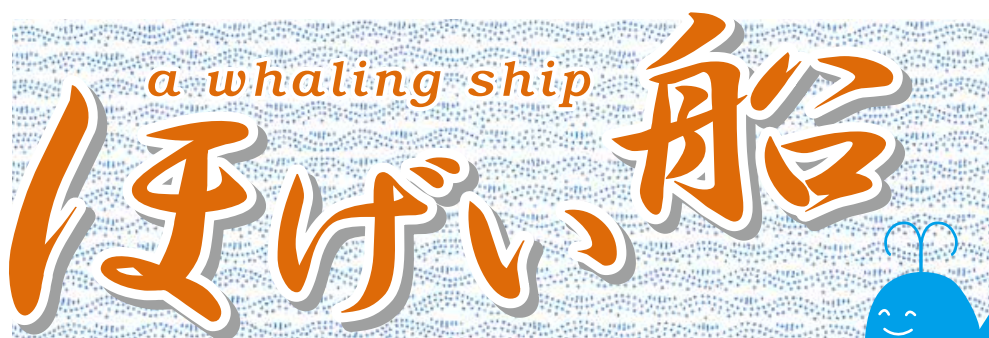




基本理念
 私達は心の
 こもった医療を
 行い、地域に信頼
 される病院とな
 ることを目指し
 ます。
 独立行政法人
 国立病院機構高知病院

編集●独立行政法人国立病院機構高知病院広報誌編集委員会／代表●大串文隆／住所●高知市朝倉西町1丁目2番25号／電話 088-844-3111／FAX 088-843-6385

One Team



NHO 高知病院 院長
大串 文隆

先日厚生労働省は地域医療構想に関して、急性期機能を有する公立・公的医療機関等のうち、再編・統合など具体的対応方針の再検証を要請する医療機関を公表しました。人口減少が進む中、地域医療を崩壊させず、在宅ケアへの移行を進めるには病院の再編統合は避けられないというのが基本となっています。我が国の人口1000人あたりの病床数は13.05床で、米国の2.77床、スウェーデンの2.22床などよりはるかに多いことが知られています。このことで、不要な長期入院を招いたり、重症患者を扱う急性期病床にリハビリが必要な高齢者が入院しているなど様々な課題が指摘されています。今回、高知県においても5病院が指摘をうけ病院再編の動きが加速する可能性も考えられます。

一方では、高知病院の地域における役割に対する期待も大きくなっていくものと想定されます。地域医療構想はもちろん、2025年がゴールではなく、その先を見据えて地域で医療を提供していくために地域関係者や患者さんから必要と評価されるために、病院全職員が団結して取り組んで行くことが重要ですし、団結が大きな力を発揮することはラグビー日本代表（ブレイブブロッサムズ）の活躍が教えてくれています。我が国でラグビーのワールドカップが開催されていますが、日本チームの活躍でわかラグビーファンが増えているようです。私も高校生の時の体育実習でラグビーをしたのでルールが少しわかる程度ですがラグビーファンの一人となっています。ラグビーは海外のチームと対戦しても歯がたたないように思っていましたし、ゲームを見てもその実力差は著明でした。体力が関係するスポーツでスクラム、タック

ルどれをとっても外国人チームに対抗できるとは思えませんでした。実際、多くの国際大会で敗北し1995年のワールドカップではニュージーランド（オールブラックス）には145-17の大敗を喫しています。日本チームが大きな金星を挙げるのは2015年イングランドでのワールドカップで当時世界3位の南アフリカに終了まじか逆転のトライを決め34-32で勝利し、海外メディアがW杯史上最も衝撃的な結果、スポーツ史上最大の番狂わせと報じました。このような実績を示しても、スーパーラグビーでのサンウルブズの戦績をみるとやはり、海外の強豪チームとの差は歴然としておりワールドカップでの活躍を期待していない国民が多かったとおもいます。初戦のロシア戦に30-10で勝利しましたが、アイルランドには厳しいと思われていて私も大敗するのではないかと心配しながら観戦しました。最初キックパスで5点がアイルランドに入ったときはやっぱりと思ったのですが、スクラム、タックルで負けることなく終わってみれば19-12と勝利し翌日の新聞はすべて、大金星と一面で大きく報道しておりました。日本選手と外国出身選手が融合しワンチームとなり多様性の強さによる勝利と言われています。すべての選手一人一人が目標に向かって自分の役割を自覚し技術を向上させ、意識統一したことも大きな勝因と言えます。このことが今の高知病院に望まれることです。

基本理念である地域に信頼される病院になるためには職種を問わず全職員一人一人が病院のために何をなすべきかを考えワンチームと成りその多様性の強さを発揮することが重要と思います。

新医師紹介



消化器内科医師
林 広茂

10月1日より消化器内科勤務となりました林です。前任は徳島県西部のつるぎ町立半田病院消化器内科でした。半田そうめんが有名なところですが、高知には現在の高知医療センターの前身の1つである高知市立市民病院などに勤めていたことがあります。半田病院では消化器内視鏡診断および治療を主にしていましたが、最近、医師数の減少で外科手術ができなくなり、胃癌などの内視鏡治療も、可能と判断される範囲での施行となっていました。また、病院の性格上プライマリーケアや救急対応など幅広い診療も行わざるを得ない状況でした。当院では消化器内科診療が主体となると思われますが、内視鏡診療には実績がある病院ですので、微力ではありますが、消化器内科の発展に貢献できますよう頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。



小児科医師
濱田 朋弥

この度、9月から小児科に赴任いたしました濱田 朋弥（はまだ ともや）と申します。生まれ育ちは高知県で、高校卒業後に一旦県外に出ておりましたが、高知に戻ってきました。大学と初期研修を山梨で過ごし、その後高知大学小児科に入局して今年で4年目になります。帰高後は約3年半高知大学におり、今回が初の転勤になります。また、小児科勤務の傍ら大学院に通っており現在4年次で、週に1回研究日をいただき、高知大学に通わせていただいております。

小児科医として修行中の身で、一般小児診療、および当院ならではの重症心身症の患者さんに対する医療を通じて成長していきたいです。今後の専門として小児神経の分野を考えております。小児科の先生方、また診療を通じて他科の先生方や各部署のスタッフの方々にお世話になることが多く、ご迷惑をかけてしまうことも多々あるかと思いますが、精進していきますので今後とも何卒よろしくお願いいたします。

診療科紹介(呼吸器センター内科)

「病気をすると 身近になる酸素のお話し」



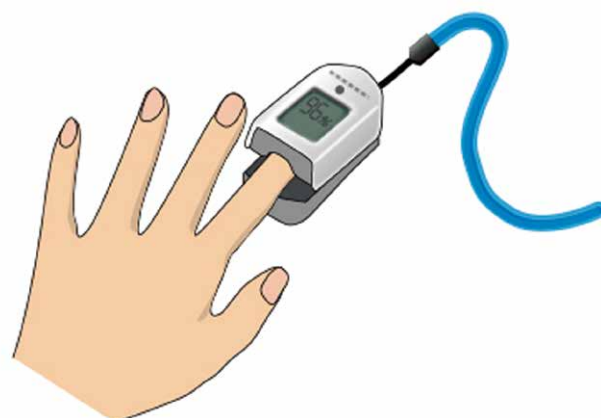
呼吸器内科医長
(内科系副診療部長)
畠山 暢生

みなさん、こんにちは。当院には呼吸器センターがあるのをご存じですか?当院では、2012年8月1日に呼吸器センターを開設し、呼吸器内科と呼吸器外科が協力して、診断から治療ができるだけ速やかに行えるように日夜診療にあたっております。

さて、今回は、人間が生きていく上で必要不可欠な酸素について少しお話をさせていただきます。私たちが毎日呼吸している酸素は空気から取り込んでいます。空気中の21%が酸素です。普段は意識することのない酸素ですが、肺炎などの呼吸器の病気をするといきなり身近になります。呼吸器の病気をしなくても、手術の後に酸素を吸入したことのある方は多いと思います。

私たち医療者が、酸素の必要性を判断するために酸素飽和度という数値を測定します。パルスオキシメーターという簡易の器械を指にはさんで測定します。酸素飽和度の正常値はおよそ96%以上です。この数字が90%未満に低下すると酸素投与が必要と判断しています。酸素投与の方法に

パルスオキシメーター



は、鼻から吸入する方法やマスクで吸入する方法があります。酸素量は1分間に使用される量で表します。通常は、2~3Lまでの投与量で間に合うことが多いですが、重症になると10L以上必要なこともあります。以前は15L以上必要となると、人工呼吸器を使用しなければならないことが多かったですが、最近ではネーザルハイフローという器械も使用できるようになり、最大1分間に60Lまでの投与も可能になっております。



医療は、少しずつ進歩してきておりますが、まだまだ難しい病気は数多くあります。ただ予防や治療できる病気もありますので、患者さんと情報を共有して少しでも病気で苦しむ状況を減らしていければと思います。

写真: ネーザルハイフロー™(Fisher & Paykel Healthcare 社ウェブサイトより:
<https://www.fphcare.jp/respiratory/adult-and-pediatric-care/optiflow/?cf=0>)

「絵の詩人」 大野長一 絵画展



職員係長
和田 吉弘



此度、大野長一絵の会の横山賢二さんのご厚意により、大野長一絵画展を当院1階の外来ホールにて9月12日から10月11日まで開催しました。

大野長一さんは1908年に高知市五台山で生まれ、県立保育専門学校校長や児童養護施設愛童園園長などで長年教育の現場に勤められていましたが、40代の頃から子供たちとともに絵筆をにぎりはじめ、1996年まで絵画の世界でも活躍された教育者、洋画家です。

当院に展示いただいた「雪の落葉松」や「紅葉（金閣寺）」といった絵画を拝見すると、横山さんが「洋画の油絵としては珍しく繊細で柔らかく、しかも格調高い、いかにも日本的な「情緒の世界」と評されるのも得心します。



また、大野さんは「ベートーベンの生家」や、「ポッペルスドルフ城」などドイツの題材を用いた作品も手がけられており、西独シェール大統領に絵画を寄贈するなど国際的にも活躍されたようです。

今回の絵画展では、著作集「子供を拝む」も配布されており、晩年、「今良寛」と評された教育者としての一面をうかがい知ることができます。

芳名帳には、ご覧になった皆様にお名前とともにたくさんのご感想をご記帳いただきました。

入院している患者さん、外来で来院される患者さん、そのご家族や職員にとって、とても実りのある芸術の秋となったことと思います。

この場を借りて、この絵画展を企画して頂いた横山賢二さんに厚く御礼申し上げます。





療育指導室保育士
川上 洋美

令和元年7月23日につくし病棟では毎年恒例の「つくし花火大会」を開催致しました。毎年、花火大会を楽しみにしており今年も多くの方が参加しました。浴衣や法被と夏らしい装いの方もおり、療育訓練室では賑やかな雰囲気でのスタートを心待ちにされていました。今年はお楽しみ会に全国をはじめ世界でもご活躍されているウクレレ奏者の KYAS さんにお越し頂きミニコンサートを開催致しました。“上を向いて歩こう”“情熱大陸”“コーヒールンバ”等皆さんになじみのある曲を優しくも情熱的なウクレレの音色と歌声が訓練室に響き、利用者さんご家族も職員も聞き入っていました。台湾からウクレレ留学に来ていたバネッサさんの演奏もあり嬉しい国際交流も出来ました。「またつくし

病棟に来て下さい!」と会場の皆さん全員でお見送りし後には、花火の開始に向け看護師や児童指導員が花火師に扮し、花火大会の開幕です。夏の暑さを肌で感じながら、家族や他の病棟の利用者さんと一緒に打ちあげ花火や吹き上げ花火を楽しみました。点火している職員に向かって「がんばって～」と声援を送る方、楽しい雰囲気に笑い声がこぼれる方、おもいおもいの時間を過ごされておりました。ひときわ歓声があがったナイヤガラの花火では「きれいやね」との声が至るところで聞かれ、最後には手持ち花火を楽しんでお開きとなりました。季節を感じ家族、職員と過ごす貴重な機会となりました。



医療マネジメント学会に参加して

管理栄養士
保手濱 由基

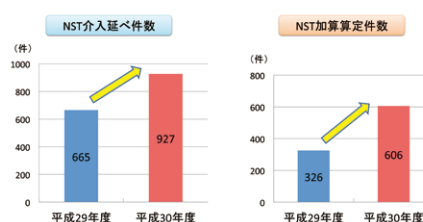


令和元年8月25日に開催された第17回医療マネジメント学会高知県支部学術集会に参加し、「当院におけるNST加算算定件数増加に向けた取り組み」というテーマで演題発表させて頂きました。当院では平成17年にNST委員会が発足し、平成22年からは管理栄養士が専従として栄養サポートチーム（NST）加算の算定を開始しています。平成30年度の診療報酬改定で、専従要件の緩和として栄養サポートチームの診察する患者数が1日15人以下である場合は4職種専任での活動が認められたため、当院ではその改定を受け、平成30年5月より、各職種専任として病棟ごとに5チームでNSTカンファレンスや回診を行う新しい形への運用に変更しました。その結果、運用変更前の平成29年度の年間NST加算算定件数が352件であったのに対し、新運

用後の平成30年度の年間NST加算件数は648件と大幅に増加しました。今回の発表を通して、当院ももちろんですが、高知県全体で更にNST活動が活発になることを願っています。

また、本学会の中で、他施設での取り組みや研究発表を聴講し、多くのことを勉強させて頂いたと同時にとても刺激になり、非常に有意義な学会であったと思います。本学会で得た知識や情報を職場で共有し、今後更に病院や地域へ貢献できるよう努めていきたいと思っています。

栄養サポートチーム介入延べ件数・
加算算定件数の比較



第15回 中国四国地区国立病院機構・国立療養所 看護研究学会に参加して

重症心身障害児者病棟
看護師長
森本 純子



9月7日、東広島芸術文化ホールくららにおいて第15回中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会が開催されました。中国四国地区22施設から74題の発表、1261名の参加がありました。

私は、昨年度発症したインフルエンザの対応を振り返り「重症心身障害児（者）病棟におけるインフルエンザのアウトブレイク予防対策」というテーマで示説発表を行いました。今回の結果を通し平時より標準予防策教育の徹底が重要であることを再認識し、職員ひとりひとりの予防行動に繋がるように取り組んでいきたいと思いました。また、学会では重症心身障害に関する発表が8題あり、「高柵ベッド廃止の取り組み」や「強度行動障害児への関わり」

は、当病棟で取り組んでいることの参考になる内容でした。今年度、病棟での小集団活動を継続し、次年度の発表に繋がるように支援していきたいと思いました。

最後に、学会参加は自分たちの研究を発表することと他施設の取り組んだ研究を知ることで互いの看護の質を高めていくためのものです。今回は当院からの発表は2題で参加者も少なかったですが、次年度は高知市文化プラザかるぽーとでの開催です。若いスタッフをはじめ多くの人に参加してほしいと思います。また、看護部長指揮の下、参加者の皆様が充実した時間になるようなおもてなしができればと思います。

慰霊祭を開催して

職員係長
和田 吉弘



当院では今年9月27日（金）に、病理解剖による医学・医療への貢献をなされたご尊霊に対して、哀悼の誠と感謝の意を捧げるために慰霊祭を開催させていただきました。平成29年度から平成30年度にご献体を賜った20名とそのご遺族に対し無宗教方式の案内をさせていただきました。

まだ暑い日が続く中、9名のご家族の方にご参加いただき、その他職員41名、看護学生35名が参列し、滞りなく執り行うことができました。

慰霊祭では、故人のお名前を読み上げ、全員で黙祷を捧げました。



その後、院長より弔辞としてご尊霊とそのご遺族に対し哀悼と感謝の意を捧げました。

ご遺族にとっては、医学発展の為とはいえ、病理解剖に許可頂くということには大変な思いがあったと思いますが、多数の参加をいただき、病院としても感謝申し上げる次第です。

そして、ご遺族、職員一同で献花を行い、その後、慰霊祭は滞りなく終了しました。

約40分という短い時間でしたが、私たち医療に関わる者として、感謝を忘れないために開催して良かったと思っています。

今回、ご参列して下さったご遺族の皆様には深く感謝すると共に慰霊祭を開催するにあたり準備や出席していただいた職員等の方々に対し、お礼申し上げます。

職員の異動

7月2日付～10月1日付の
人事異動（常勤）

採用

▶ H31.9.1
小児科医師 濱田 朋弥
▶ H31.10.1
消化器内科医師（消化器内科医長） 林 広 茂

退職

▶ H31.7.31
副看護部長 大張 博代
▶ H31.8.31
麻酔科医師 太田 宗幸
麻酔科医師 和智万由子



診療放射線技師 狩俣 昌平
▶ H31.9.30
小児科医長 武市 知己
消化器内科レジデント 笠井 昭成
看護師 田中 有貴
看護師 塩田 華子

感染管理室だより

院内感染対策研修

副看護師長
河村 ひとみ

院内感染対策、抗菌薬適正使用に関する研修を年2回行っています。職員の皆さんにできるだけ多く参加していただきたいため、集合研修の他に部署でのDVD閲覧研修も行っています。

今年度の1回目の研修は「個人防護具の着用方法」「血液培養の採取方法と当院の検出状況」について実施しました。受講していた皆さんからは「手袋の着脱といったごく基本のことを改めて学び、さらに気をつけようと思った」「防護具装着前後の手指衛生が重要とわかった」「血液培養の採取方法を再度確認することができた」「血液培養の検体採取の重要性がよくわかった」など、多数のご意見をいただきました。

今年度の2回目の研修はICD 岩原先生、薬剤師西川先生より、「インフルエンザ感染対策」「当院のAST活動、介入事例」について講義していただきます。徐々に暑さも和らぎ過ごしやすい季節となりつつありますが、私たち医療従事者

にとっては、毎年頭を悩ませる季節性インフルエンザのシーズンが近づきつつある、とも言えます。インフルエンザ流行期を乗り切るために、院内で行う感染対策のポイントについて分かりやすく講義してくれています。また、平成30年度から「AST」が発足となり活動を行っています。「AST」とはAntimicrobial Stewardship Teamの略で「抗菌薬適正使用支援チーム」のことです。感染症治療の早期モニタリングとフィードバック、微生物検査・臨床検査の利用の適正化、抗菌薬適正使用に係る評価等を行い、抗菌薬の適正な使用の推進を行っています。今回の研修では、ASTが抗菌薬の適正使用のためにどのような活動をしているか、より知っていただける機会となっていると思います。

職員の皆さんには、集合研修または部署内DVD閲覧研修に是非ご参加いただきますよう、よろしくお願いいたします。

医療安全管理室だより

5S活動報告を終えて



医療安全管理係長
山本 三恵

当院では医療安全管理活動として毎年5S活動に取り組んでいます。5S活動とは「整理・整頓・清掃・清潔・しつけ」の5つの頭文字をとっているもので、民間企業、特に工場などでは1980年代から積極的に取り入れている手法です。必要以上に物を置かない。誰でもすぐ分かる場所に物を置く、更に常に清潔に保つということが続けることで、探す手間を省いて作業効率を上げたり、不良在庫を抱えないためのコストを下げたりすることができ、最終的に企業の経済効率を高めるという効果があります。

医療の分野で考えると、コスト削減のほかに、物の定位置が決まっていて、明確に表示されていることは物を取り出すときに誤って違う物を取り出すという危険の回避に繋がります。そして、誰でもすぐ分かる場所におくということは、緊急時に必要物品を取り出すときにその効果が発揮されと考えます。整理の中には医療機器の整理点検の内容も含まれ、医療機器の不具合による事故防止に繋がります。また、清掃・清潔は感染防止と

いう観点から医療現場では重要なことと言えます。

このような取り組みを、6月～8月までの3ヵ月の間に各部署で検討・実施し、結果を9月に報告しました。今年度も22の部署が5S活動に参加し、その活動報告は、成果を称えるために投票を行い、投票結果の3位までは10月下旬まで1階受付ホール前に展示しています。今年の優勝部署は理学療法室、準優勝部署は事務部企画課、3位は4階北病棟でした。これらの結果を、職員の医療安全に対する思いや、取り組みをより多くの方に知っていただけたら幸いです。

最後になりましたが、5S活動にご協力いただいた皆様ありがとうございました。

2019年度 5S活動報告 投票結果上位3部署はこちら



看護学校だより

2年生（第56期生）

基礎看護学実習Ⅱ 振り返りの会

看護学校 教員
水口 沙紀

令和元年9月27日（金）第56期生振り返りの会を行いました。

振り返りの会は、個々で実施してきた看護を共有し、文献等を用いながら「新たな看護の知」を創り出すことを目的に行っています。実習終了後から短い期間ではありましたが、何度も教員とやり取りを行い、実践してきた看護の意味を問い直しながら、自分たちの考えを適切に表現できる言葉を精選していく様子が印象的でした。最後まであきらめずに向き合う姿勢を担任として誇らしく思いました。

当日は臨床から矢野看護部長さんをはじめ、たくさんの臨床指導者の方々に参加してくださいました。次回からの領域別実習に向けて温かい助言を頂き学生たちの士気を高める機会となりました。お忙しい中ご出席頂き、ありがとうございました。

看護師長さんに実習へのお礼を述べました。師長さんからはエールをいただき、これからの実習に向けての意欲が湧いてきました。



指導者さんからの講評で実習のことを思い出し、もっと良い看護をしたいと考えさせられました。



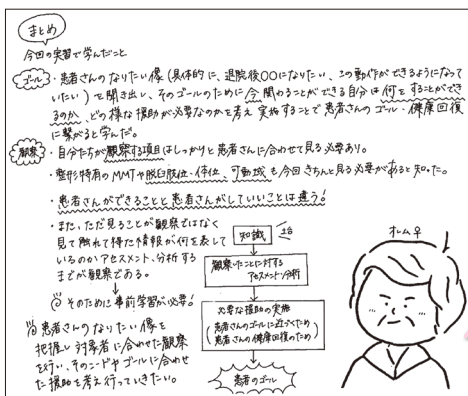
振り返りの会を終えての学生のコメント

自分たちの学びがどう書いたら指導者さんや先生、みんなに伝わるか、より具体的に例を挙げることを工夫してどのグループも資料作成ができていて、意見交換も活発に行えたのでより学びが深まりました。

矢野 七海

短い期間の準備だったけれど、グループで12日間の実習を通しての学びや本質的な問いに対する答えを話し合うことができました。自分とは違う視点の考えや気づきを見つけることができました。また他の病棟の発表を聞き、意見交換をすることで似た状況での考え方や対応の違いを知り、次の実習に活かして行こうと思いました。

矢野 美風



何度も書き直した資料の一部抜粋です。紙が破れるまで書き直したグループもありました。

地域医療 連携室だより

看護師長
西本 美香



第11回地域医療連携連絡会



第11回 地域医療連携連絡会をザ・クラウンパレス新阪急高知にて8月3日に開催しま

した。高知県下の病院から医師や地域医療連携室職員等の方々86名にご出席頂き、院内参加者とあわせて総数152名と盛大に執り行うことができました。地域医療連携連絡会は、地域の医療機関の方々と直接お会いし、当院について知って頂くと共に当院へのご意見を頂き今後の改善や取り組みに活かせるよう、顔の見える関係を構築することで円滑な連携へと潤滑油となる機会とすることを目的に開催しています。お蔭様で、今年で11年目を迎えることができました。

特別講演は、高知県健康政策部医監（兼）医療政

策課長 川内淳文先生から「地域医療構想などの動向について」をテーマにお話を頂きました。高知県の人口自然減、高齢化率の状況について、また、地域医療構想の実現に向けて病床転換の流れや支援策の具体的な取り組みをご講演頂きました。当院の各診療科紹介としては、内科系は内科系診療部長 岩原義人先生、外科系を地域医療連携室長 日野弘之先生が担当し、現在の各診療科の動向についてプレゼンテーションを行いました。引き続き開催した意見交換会では、来賓を代表して高知市医師会会長 野波 誠二先生にお言葉を頂きました。地域医療構想に向け各医療機関が自施設の役割を果たすと共に、病病連携を図る役割について話された言葉が、心に刻む言葉であったように感じました。又、高知県の医療について参加頂いた医師や看護師、理学療法士、ソーシャルワーカー等様々な職種による病院間での活発な情報交換を行うことができました。

地域包括ケアシステムでは、職員一人ひとりが、当院の役割を理解し、地域の医療・介護機関等と連携していくことが大切です。私達地域医療連携室は病院を代表して、更に在宅療養推進に向けて、地域と看護を繋ぐ退院支援や、患者・家族の望む支援を行い、住民の方々のために、各施設が連携を強化し、適切な医療連携体制ができるよう努めてまいりたいと思います。最後に、参加頂いた皆様方のご協力のもと開催することができたこと、あらためて感謝申し上げます。

第163回 高知病診連携フォーラムのご案内【日時：令和元年11月27日 18:30～20:00】

「肺がん治療の最新のトピックス（仮）」

●金沢大学 がん進展制御研究所腫瘍内科／教授 矢野 聖二 先生

第164回 高知病診連携フォーラムのご案内【日時：令和元年12月20日 18:30～20:00】

医療安全研修「医療訴訟に耐えうる記録の書き方及び苦情への対応等」

●森脇法律事務所／森脇 正 弁護士

場所：国立病院機構高知病院 2階地域医療研修センター

問い合わせ先：地域医療連携室 088-828-4465

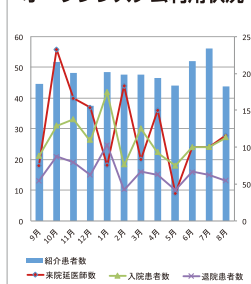
ご参加お待ちしております。

第21回日本医療 マネジメント学会学術集会

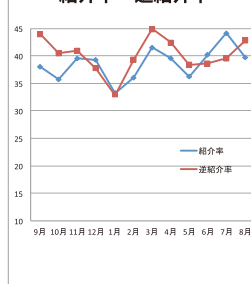
院内教育計画と共同し退院支援研修に取り組んだことを、地域医療連携のセッション、テーマ「退院支援研修の実施後評価」で発表を行いました。今後も、病棟看護師が退院後の患者の生活に向けて支援ができるよう、研修の継続と効果的な退院カンファレンスを行っていかうと考えています。

高知病院地域連携等概況

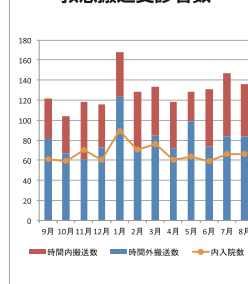
オープンシステム利用状況



紹介率・逆紹介率



救急搬送受診者数



外来診療担当医表

(令和元年10月1日現在)

■受付時間 8:00～11:00

■休診日 土曜・日曜・祝日・12月29日～1月3日



独立行政法人
国立病院機構 **高知病院**

〒780-8077 高知県高知市朝倉西町1丁目2番25号
TEL (088) 844-3111 FAX (088) 843-6385
<http://www.kochihp.com>



診療科	区分・診察室番号	月	火	水	木	金
内科	午前 1診 ⑫	岩原 義人	山崎 隆志	井上 修志	篠原 勉 (2-4-5週休診)	
	特別外来 ⑪	松森 (糖尿病)	岩原 (血液)	松森 (糖尿病)	岩原 (内科)	松森 (糖尿病)
	午後 専門外来			化学物質過敏症 (予約制)		
神経内科		⑰ 不定期 (院内案内板に掲示しています。お電話にてお問い合わせ下さい。)				
呼吸器内科 アレルギー科	午前 1診 ⑧	岡野 義夫	大串 文隆 (予約制)	畠山 暢生	大串 文隆 (紹介のみ)	門田 直樹
	2診 ⑥		森田・矢野 (隔週)		町田 久典	畠山 暢生
	3診 ⑫					
	午後 専門外来				禁煙外来 14:00～15:30 (予約制)	
消化器内科	午前 ⑨	林 広茂	池田 敬洋	井上 修志	岡崎 潤	池田 敬洋
循環器内科	午前 ⑦	山崎 隆志	西村 直己		山崎 隆志	
	午後 ⑦			伊藤 いづみ 受付13:30～16:00	ペースメーカー (第2木曜)	
リウマチ科		⑩ 松森 昭憲 (糖尿病も診察)		大串 文隆 (予約のみ)		松森 昭憲 (糖尿病も診察)
小児科	午前 1診 ①	大石 尚文	井上 和男	大石 尚文	小倉 英郎	大石 尚文
	2診 ②	佐藤 哲也	武市 知己	佐藤 哲也	佐藤 哲也	高橋 芳夫
	3診 ③	井上 和男	濱本 諒	小倉 由紀子	井上 和男	
	午後 専門外来	慢性疾患 アレルギー	神経・アレルギー 循環器 (第2火曜 医大循環器)	乳児健診	アレルギー NICU フォローアップ	慢性疾患 乳児健診
	予防接種	14:00～16:00 (予約制)	14:00～16:00 (予約制)	14:00～16:00 (予約制)	14:00～16:00 (予約制)	14:00～16:00 (予約制)
外科 消化器外科 小児外科	午前 ⑤ ⑥	浅野間 理仁	福山 充俊 (乳がん検診も実施)	山崎 誠司	福山 充俊 (乳がん検診も実施)	金本 真美 (肝臓・胆道・脾臓外来)
	午後 専門外来	浅野間 理仁 (ヘルニア外来) 受付15:00まで	福山 充俊 (乳腺外来)		福山 充俊 (乳腺外来)	
呼吸器外科	午前 ⑧ ⑦		先山 正二 日野 弘之		先山 正二 日野 弘之	先山 正二
	午後 ⑧			本田 純子 受付15:30まで		本田 純子 受付15:30まで
乳腺科	午前 ⑤	本田 純子		本田 純子		
	午後 ⑧			本田 純子 受付15:30まで		本田 純子 受付15:30まで
整形外科	午前 ①	福田 昇司 (1・3・5週のみ 予約制 2・4週 通常診療)		川口 真司	福田 昇司	合田 有一郎
	午後 ②	川口 真司 (2・4週休診) 骨粗鬆症 (予約制) 13:00～15:00			田村 竜也 (予約制)	
脳神経外科	午前 1診 ⑧			非常勤 9:00～11:00 (予約制) 予約外の方はお問い合わせ下さい		
皮膚科	午前 ⑬	高橋 綾	高橋 綾	高橋 綾	高橋 綾	高橋 綾
泌尿器科	午前 ⑨	渡邊 裕修	島本 力	佐竹 宏文	渡邊 裕修	佐竹 宏文
	⑦	佐竹 宏文 診察開始 10:00～				島本 力 診察開始 10:00～
産科	午前 ⑳	滝川 稚也	滝川 稚也	今泉 純貴 1ヶ月検診	今泉 純貴	産科特殊外来 (予約制)
	午後					
婦人科	午前 ㉑	木下 宏実	今泉 純貴	木下 宏実	滝川 稚也	木下 宏実
	午後		クーポンがん検診 (予約制) 10:30～11:30		クーポンがん検診 (予約制) 10:30～11:30	思春期外来 (予約制)
眼科	午前 ㉒	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子
耳鼻咽喉科	午前 ⑯	中野・内藤	中野・内藤	中野・内藤	中野・内藤	中野・内藤
放射線科		塩田 博文	塩田 博文	塩田 博文	塩田 博文	塩田 博文

※ 市町村発行のクーポン券を利用される乳がん検診は、平日の午前中 外科外来にて行っています。診察も希望される場合は事前に外科までお問い合わせください。

※ 当日の受付は午前11:00までとなっております。